

# 無線インターネット放送による中心商業地（名古屋市伏見・長者町地区）の活性化（072306004） Regeneration of the Central District of Commerce (Fushimi-Chojamachi Area of Nagoya) by Wi-Fi Internet Broadcasting

## 研究代表者

安田孝美 名古屋大学情報科学研究科  
Takami Yasuda Nagoya University Graduate School of Information Science

## 研究分担者

林 良嗣<sup>†</sup> 後 房雄<sup>††</sup> 後藤 明史<sup>†††</sup> 川上 淳<sup>††††</sup> 宇佐美 博<sup>††††</sup> 宇佐美 理<sup>†††††</sup>  
一柳 良直<sup>†††††</sup> 山口 兼市<sup>††††††</sup> 堀田 勝彦<sup>†††††††</sup>  
Yoshitsugu Hayashi<sup>†</sup> Fusao Ushiro<sup>††</sup> Akifumi Goto<sup>†††</sup> Jun Kawakami<sup>††††</sup>  
Hiroshi Usami<sup>††††</sup> Tadashi Usami<sup>†††††</sup> Yoshinao Ichiyanagi<sup>††††††</sup>  
Kenichi Yamaguchi<sup>†††††††</sup> Katsuhiko Hotta<sup>††††††††</sup>  
<sup>†</sup>名古屋大学環境学研究科 <sup>††</sup>名古屋大学法学研究科 <sup>†††</sup>名古屋大学情報メディア教育センター  
<sup>††††</sup>名古屋大学法学部 <sup>†††††</sup>名古屋大学情報科学研究科  
<sup>††††††</sup>名古屋市市民経済局産業部産業経済課 <sup>†††††††</sup>八木兵株式会社 <sup>††††††††</sup>堀田商事株式会社  
<sup>†</sup>Nagoya University Graduate School of Environmental Studies  
<sup>††</sup>Nagoya University Graduate School of Law Studies <sup>†††</sup>Nagoya University Center for Information  
Media <sup>††††</sup>Nagoya University School of Law <sup>†††††</sup>Nagoya University Graduate School of  
Information Science <sup>††††††</sup>Industrial Economy Division of Nagoya-city <sup>†††††††</sup>Yagihyo.Co.Ltd  
<sup>††††††††</sup>Hotta Syoji.Co.ltd

研究期間 平成 19 年度～平成 20 年度

## 概要

本研究課題は、中心商業地（名古屋市伏見・長者町地区）の空洞化の問題を解決するため ICT（情報通信技術）を積極的に導入することにより、繊維問屋街の伝統を活かしながら、新しい都市型産業をおこすことで再生・活性化することを目指す。危機意識を持って活発な取組みを始めている地元の組織（錦 2 丁目まちづくり連絡協議会）と行政（名古屋市産業経済課）との密接な連携のもとに、無線インターネット放送（無線 LAN を経由して発信されるインターネット放送）を機軸とし、情報関連のインフラ整備を基礎に、住民主体の様々な種類のコンテンツ制作と情報発信によって、ICT による新しい時代の街作りを追究した。

## Abstract

The research task of this project is regeneration of Fushimi-Chojamachi area of Nagoya, an old central district of commerce, which is suffering from a declining population, by applying ICT, promoting new type of urbanized industry, and preserving the tradition of textile goods wholesale. To be more specific, the project is investigation of town planning of new age by creating superior contents, transmitting information, with utilizing ICT infrastructure improvement by Wi-Fi Internet Broadcasting in close coordination with the organization of local enterprise and people (Nishiki 2-Chome Machizukuri Renraku Kyogikai) and the administrative organ (Industrial Economy Division, City of Nagoya).

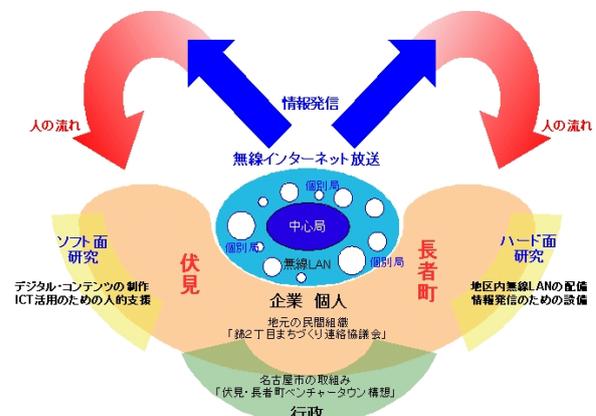
## 1. まえがき

経済構造の変化により空洞化の危機にあった繊維問屋街がある名古屋の中心市街地（伏見・長者町）活性化研究を行ってきた。この中で、ICT がどのように積極的役割を果たすことができるかについて、無線インターネット放送を中心に研究開発する。本研究は大学の研究者だけでなく、地元住民、行政（名古屋市）も参加するものとなった。研究期間終了後の事業の継続性を探るため、繊維問屋が参加する e コマースなどにも取り組んだ。

## 2. 研究内容及び成果

<平成 19 年度の研究内容>

- (1) 以下のようにコンテンツ（番組）制作体制を確立した。  
①学生スタッフの組織化 ②地元の協力体制 ③研究分担者（大学、行政、地元）の協力連携
- (2) 次のようなコンテンツ（番組その他）を制作した。  
①ドキュメンタリー番組（長者町の歴史から現況までにつ



いて様々な角度で切り込む内容の番組を制作した) ②現場訪問番組（域内のスポットにカメラが入り風景を撮影し、インタビューを行う）③インタビュー番組（地域内から近隣、その他「長者町」にいろんな立場から関係している人

に、インタビュー) ④イベント番組(町興しイベント「えびす祭り」について生中継放送番組を大型番組として制作した他、公共施設のイベントも取り込んだ) ⑤他メディア連携番組; 名古屋長者町織物協同組合の「長者町新聞」掲載記事と連携

(3) 長者町イラストマップ制作の準備を行った。長者町(町並み)の変遷をイラストにより再現する企画調査を進めた。

＜平成 20 年度の研究内容＞

(1) 「放送形式」から「ブログ形式」へ

平成 19 年度の研究開発は、「放送」のイメージを追求するものだったが、インターネットの双方向性の可能性を追求する方向に進んだ。

①ブログ形式によるインターネット放送のなかでの「ワイド番組」の試み ②イベント・ワイド番組「えびす祭り生中継」(前年度、携帯電話による生中継だったのを無線 LAN を活用して行うものにしてスタジオ中心から外部、現場中心となった) ③地元密着の「e コマース」=「えびすモール」の立ち上げ ④ブログ形式インターネット放送への自由な参加を促す「特派員制度」などを実施した。

(2) まちの三世代による地域学習教材(まちの今昔を知るテキスト)を制作

前年度に着手したイラストマップを発展させ、古老、現役世代、子供たちの協力で地元の御園小学校でまちの現状を把握するワークショップを行った。

(3) インターネット放送をサポートする人材の育成  
月 1 回現地で講習会を開き無線 LAN の基本的な利用からビデオの撮影と簡単な編集、動画の配信、ブログの更新、ストリーミングサーバの利用法などを地元の人が習得した。  
＜成果＞

(1) 外への情報発信による活性化とともに地域の中でのコミュニケーションが活発に行われた成果が大きく、特に「特派員」の制度は非常に効果があった。

(2) 無線 LAN の面展開をベースとする「無線インターネット放送」も特にイベント生中継などで力を発揮し、個人の参加性を上げる点でも効果的だった。

(3) 事業化、ビジネスモデル開発にはコンテンツの制作開発が重要で、その方法、内容、費用など多くのケースを実施することができた。

(4) コンテンツの研究開発では単なるブロードバンドによる放送番組形式でなく、インターネットの機能を活かしたブログ形式を利用して新しい展開ができた。

(5) e コマース「えびすモール」は ①本受託研究終了後の継続の受け皿として、②中小卸売業の新しい販売チャンネルとして、③ベンチャータウン構想 ICT 企業の物品販売チャンネルとして、④地域飲食店などの宣伝として成果があり、映像を使った「テレショップ型 e コマース」を取り入れ実施している。

(6) まちの三世代による地域学習教材制作で作られたテキスト「ちょっと昔を思い出す」「長者町通りたんけん」は地元小学校の地域学習教材として利用予定である。

### 3. むすび

ICT が地域開発に積極的役割を果たす試みとして無線インターネット放送という形で行った結果、地域からの情報発信と地域の中でのコミュニケーションを促すこととなった。名古屋市が進める「ベンチャータウン構想」で新たに起業した IT ベンチャーによる、e コマース「えびすモール」の立ち上げを支援した。これには地元織物問屋街が出店している。地元の自主的な街づくりに大学、行政が、支援・協力する体制が成果に結びついた。

本研究の今後の展開方向

(1) 新規サービス・産業の創出へ向けて「無線インターネット放送」がどのような形で実施できるか具体的にコンテンツ制作などを中心に実施した。今後これを基礎として特に収益性の確保を追求して行く。その際基軸となるのはあくまでコンテンツ開発であり、これを地元の組織、若手経営者との連携を深めて進める。

(2) 他の研究への波及効果として ①町作り(都市計画)研究(地元の人々のコミュニケーションが豊かになりより良い町づくりが話し合われて街のデザイン、マスタープランの研究と結びついて行った) ②アート振興研究(メディア・アート創生の可能性をファッションの要素も取り込んでさらに追求する)

(3) 社会経済的な波及効果として、この地域では戦後「名古屋長者町織物協同組合」が設立され、その当初から「長者町新聞」が発行されて地域社会のコミュニケーションに寄与して来た。今回その基盤の上に電子情報を中心とする ICT を利用する取り組みをした。「無線インターネット放送」は地域の情報発信・コミュニケーションの新しい次元を切り拓いた。インターネットについてはすでに地域内の各企業が独自にホームページを開設しており、それを統合する課題が果たされた。しかもこの「無線インターネット放送」が新しい都市型の産業としてここに根を降ろすことができれば、この地域社会に新しい事業を創出することになり、さらには「放送」という機能により、地域全体の事業の振興、人々の生活の向上に寄与するものにもなろう。特に、今回このメディアのスキルを持った人材を育成し、これが今後の展開に非常に有効なものとなることが期待される。

制作された「番組」から

#### 平成 19 年度

『清州から名古屋へ～長者町の原点を探れ！～』



#### 平成 20 年度

ブログ形式によるインターネット放送の「ワイド番組」



#### 【誌上発表リスト】

[1]宇佐美理、武市久美、“IT を活用した街の活性化への大学の関わり—学生による映像番組制作プロジェクト—”、メディアと社会 Vol.1 No.1 pp117-138 (平成 21 年 3 月 31 日)、被引用度数: 0

#### 【報道発表リスト】

[1] “名古屋の伏見・長者町 総務省の「SCOPE」に採択街中が放送局 アパレルや行事をネットで紹介”、中日新聞、平成 19 年 5 月 1 日朝刊  
[2] “午後のひととき 木曜ラジオ”、NHK名古屋放送局ラジオ第一放送、平成 19 年 11 月 29 日午後 4 時 50 分から 5 時まで放送  
[3] “長者町再生 IT で後押し・えびす祭りネット中継”、中日新聞、平成 20 年 11 月 8 日朝刊